

平成28年 第11回教育委員会会議

1 日 時

平成28年10月12日（水）

開会 11時00分

閉会 12時00分

2 場 所

教育委員会室

3 出席者

田中新太郎教育長、金田清委員、中村健一委員、横山真紀委員、眞鍋知子委員
西川恒明委員

4 説明のため出席した職員

新屋長二郎教育参事、脇田明義教育次長、竹中功教育次長、齋田正活教育次長、
平畠敏彦教育次長兼教員指導力向上推進室長、小浦寛教育次長兼学校指導課長、
池田誠庶務課長、杉中達夫教職員課長、篠原恵美子生涯学習課長、浅田隆文化財課長、
徳田伸一スポーツ健康課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第24号 平成28年度石川県優秀教職員の決定について（原案可決）

6 報告案件

第1号 平成29年度石川県公立学校教員採用候補者等の選考結果について

第2号 平成28年度いしかわマスター教員の決定について

第3号 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について

第4号 第26回全国産業教育フェア石川大会の概要について

第5号 第71回国民体育大会における本県選手団の成績について

7 審議の概要

・開会宣告

田中教育長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第24号及び報告第2号は人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定

・質疑要旨

以下のとおり

報告第1号 平成29年度石川県公立学校教員採用候補者等の選考結果について
(杉中教委職員課長説明)

報告第1号、「平成29年度石川県公立学校教員採用候補者等の選考結果」についてご説明を申し上げます。お手元の資料3ページをご覧ください。まず「1 候補者数」についてですが、教諭及び養護教諭については、受験者総数1,365人から、採用候補者として320人を選考いたしました。この結果、受験倍率は、昨年度より0.2ポイント減少し、4.3倍となりました。括弧書きとなっておりますのは、3年以上の正規教員の勤務経験を有する受験者を対象とした選考区分Ⅳの結果であり、受験者40人の中から16人を選考しております。

また、採用候補者を受験区分別に見ますと、小学校が155人、中学校及び高等学校が150人、養護教諭が15人となっております。

次ページをご覧ください。受験区分及び教科別における採用候補者の内訳や倍率の一覧です。表の下から2段目に、昨年度に続いて実施した理療科教諭等の選考に関しては、受験者4人から1人を採用候補者として選考しました。

前のページにお戻りください。ページ中ほどの現職の学校栄養職員を対象とした栄養教諭の特別選考につきましては、受験者11人から4人を採用候補者として選考しました。

なお、選考結果につきましては、いずれも10月7日午後3時、採用候補者の受験番号を公表するとともに、全受験者宛てに結果を発送したところです。今回の選考においても、教科の専門性や指導力・実践力のある優れた人材が得られたものと考えておりますが、さらに資質能力を磨き、指導力の向上を図るため、研修の一層の充実に努めてまいります。その第一歩として、採用内定者が4月から自信と熱意を持って教師生活をスタートできるように、12月から来年3月にかけて採用前研修(7講座)を実施することとしております。以上です。

【質疑】

質疑なし。

報告第3号 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について
(小浦教育次長兼学校指導課長説明)

報告第3号「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について」ご説明します。資料の8ページをご覧ください。初めに「Ⅰ 調査の概要」をご覧ください。1の「調査の目的」から3の「調査実施日」につきましては記載のとおりです。なお、今年度の調査は悉皆調査で行っております。

4の「調査の内容」につきましては、国語、算数・数学の教科に関する調査と、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査が実施されました。

5の「調査を実施した本県公立学校数・児童生徒数」につきましては記載のとおりです。

次に、9ページの「Ⅱ 調査の結果」をご覧ください。まず、1の「教科に関する調査の結果」についてですが、本県の平均正答率については、例えば、表の中に小学校6

年の国語 A においては、本県 78.6%、全国 72.9%となっております。小学校 6 年、中学校 3 年の国語、算数・数学の全てにおいて、本県の平均正答率は全国平均を上回る結果となっており、報道等でご承知のことと思いますが、小学校 6 年では、平均正答率が 4 科目のうち 3 科目で全国 1 位、残りの 1 科目は 2 位です。中学校 3 年では、昨年同様、全ての科目で 4 位以内であり、本県の児童生徒が、基礎・基本と応用のどちらについても、高い学力を維持できている状況を確認することができたと受け止めています。

内容を見ますと、例えば小学校 6 年国語においては、基礎的・基本的な知識・技能を問う A 問題では、全国平均を上回りおおむね良好な結果でした。また、知識・技能の活用を問う B 問題では、経年の課題であった「複数の資料を関係付けて読む」ことが国より 4.3 ポイント高くなっております。また、「グラフや表を基に自分の考えを書く」ことについても、国より 6.3 ポイント高いなど、おおむね良好な結果でした。

小 6 算数では、経年的な課題であった「割合」を使って問題を解決することについて、まだ十分とは言えませんが、全国との比較では一定の改善が見られています。

このような結果については、何より学校現場の教員の皆さんや、子どもたちの日ごろの努力の積み重ねがこのような結果につながったと考えています。

今後とも、本県の子どもたちの高い学力を維持していけるよう、引き続き県教委においても、市町教委や各学校と連携し、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

次に、10 ページをご覧ください。2 の「質問紙調査の結果」について、主な結果を説明いたします。まず、児童生徒質問紙調査結果からです。「学習に対する関心・意欲・態度」について特徴的なものを紹介します。下の方の (2) の「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」という児童生徒の肯定的な回答をした割合は、小学校 6 年で 72.4%、中学校 3 年で 68.8%と、ともに全国よりも高くなっております。

さらに、11 ページの (4) 「算数・数学の授業で問題の解き方や考えが分かるようにノートに書いている」という児童生徒の割合は、小学校 6 年で 87.6%、中学校 3 年で 84.7%と、ともに全国よりやや高いなど、主体的に学習を進めようとする態度において良好な面が見られる結果と言えます。

次に、児童生徒の「学習習慣等」について特徴的なものを紹介します。12 ページをご覧ください。例えば (5) の「家で、自分で計画を立てて勉強している」児童生徒の割合が、小学校 6 年では 66.4%、中学校 3 年では 52.5%と、ともに全国よりやや高い結果であり、特に (6) の「家で、学校の授業の復習をしている」児童生徒の割合は、小学校 6 年で 65.5%と、全国よりかなり高く、中学校 3 年でも 56.2%と、全国より高いという結果でした。これらのことから、本県児童生徒の学習習慣については、主体的・計画的に学習しようとする面において良好な結果であると言えます。

なお、ただ今紹介しました児童生徒質問紙調査項目については、肯定的に回答している児童生徒ほど、教科に関する調査の結果が良いという傾向が見られています。

なお、13 ページの「生活習慣等」の項目についてもおおむね良好な結果でした。

最後に、学校質問紙調査についてです。14 ページをご覧ください。(9) の「児童生徒のさまざまな考えを引き出し、思考を深める発問や指導をしている」学校の割合は、小学校は 95.2%、中学校 93.4%で、ともに全国と同程度という結果ですが、特に「よく行った」という積極的な回答は、小学校では全国を 6.4 ポイント上回る高い割合であり、中学校では全国を 13.4 ポイント上回るかなり高い割合でした。

また、(10) の「全国学力・学習状況調査の自校の結果を、学校全体で教育活動を改

善するために活用した」学校の割合は、小学校は 99.0%、中学校は 97.8%と、ともに全国よりやや高いのですが、特に「よく行っている」と積極的に肯定する回答は、全国を小学校で 38.9 ポイント、中学校で 32.1 ポイント上回り、ともにかなり高い結果でした。こうした結果を受け、今後、「よく行った」などの積極的な肯定的回答をする学校の割合を少しでも高めていくよう努めてまいります。

以上、今年度の全国学力・学習状況調査の結果についてご説明いたしました。今後につきましては、各学校等の指導の改善・充実に役立つよう、県全体の「結果の概要」を今月下旬をめどに取りまとめ、市町教委や各学校に配布するとともに、その後、金沢大学との連携を取り、さらに学力調査結果の詳細な分析を加えて、成果・課題等を洗い出し、それに基づいた改善事例等を学力向上プログラム（Web）に掲載するなど、本県児童生徒の一人一人の学力がより一層高まるよう指導・支援を続けてまいりたいと考えております。以上で、説明を終わります。

【質疑】

（西川委員）

14 ページの（10）の教育活動を改善するために活用したかどうかというところで、中学校がちょっと少ないなど。それは全国に比べればいいのかもしれませんが、せっかくやったものをやったらやりっ放し、言葉は悪いですが、そういう感じを受けます。私も事務所時代は必ずこれをやってくれというお願いをしていました。もうちょっと数字が高くていいなあという感想です。

（小浦教育次長兼学校指導課長）

先ほど述べましたが、よく行われているという割合が全国よりもかなり高いのですが、県教委としましても、よく行っているという割合をさらに高めていきたいと、学校の方にいろいろ支援していきたいと思っています。

（横山委員）

今回は、1位と2位の大きな差ではありませんが、中の認知度がすごく高まっていて、石川県はかなり素晴らしいという声を聞いています。事務局の皆さんをはじめ、恐らく努力をなされたのであろうと思います。

それから、今の（10）の話もやはり素晴らしいと思います。このような形で次に生かすということで、その積み重ねが恐らく今回の結果につながったと思います。一つ、その中で気になるのが、各学校の差というか、恐らく教科ごとに、この学校は同じ地域でもこれだけの差があるのだということが明確に見えてくると思います。こちらのフォローアップも恐らくされていると思いますが、見えない部分が気になるということがありますので、今後も手厚いフォローアップをお願いしたいと思っています。

（小浦教育次長兼学校指導課長）

これは本当に経年の課題です。年度間によるばらつきや学校間によるばらつきがあります。県としては、12 か条+を浸透するとともに、組織的実践の拠点校や連携校を含めて、他の学校とも連携しながらしっかりとやっていくという方法をとっています。一步一步やっていきたいと思っています。

(田中教育長)

まさに学校間のばらつきや年度間のばらつきをいかに少なくするか。これも一年一年の積み重ねの結果で、各学校の教職員の皆さんが一致団結してしっかり同じ方向を向いてやっていけば、その方向に動いていくと思っています。この水準を落とさず、維持・向上していくということに現場一緒になって知恵を絞って頑張っていきたいと思っています。

(中村委員)

大変立派な成果が上がって、うれしく思っております。懸念として、小中まではいいのですが、高校がだいぶ緩んで普通に落ちているのではないかと。これは決して全国でトップクラスの高校レベルにあるとはとても思えません。われわれもこの後の引き継いだ高校までをしっかりとやっていく責任がありますから、そこも気を配ってしっかり対応してもらいたいと思います。それが大学の合格率など、いろいろな面で数値がある程度出ているので想像はつきますが、私は大体並みより少しいいぐらいで、トップクラスの県ではないという感じで、間違っていたらごめんなさい。ただ、私はそれぐらいだと思いますので、もしそうだったらまたお考えいただきたいと思います。

(田中教育長)

学校指導課長どうですか。高校の水準、あるいはそれへの対応ということで、今の取り組みを説明してもらえますか。

(小杉教育次長兼学校指導課長)

学力スタンダードを作りました。いろいろな学校があるので、学校の生徒にいかに求められる力を付けていくかということがあります。特に難関大学などを目指す生徒が多く入ってくる学校については、目標を掲げてしっかりとやるという取り組みを昨年度から始めています。現状は、中村委員がおっしゃったように、われわれは全国では少し上ぐらいではないかというイメージがありますが、さらにそれを推し進めていきたいと思っています。

全国学力・学習状況調査は公立学校を主な対象にしています。いわゆる首都圏などにある私立の中高一貫などは入っていないということが当然あります。しかし、そんなことは言ってられませんので、公立学校を頑張って支援していきたいと思っています。

(眞鍋委員)

今、中村委員がおっしゃったように、これを高校にどうつなげていくかということもあるかと思っています。例えば12ページの学生生活のデータなど、小6と中3で比較してみると、小6で自学自習のようなことができている、中3のデータを見るとすごく低くなっているということがあります。そうすると、高校に行くともっと勉強しなくなるようなイメージもあります。この後、金沢大学の先生と一緒に深い分析をされるということですが、そのような小6から中3との比較というか、そういう視点も入れて検討していただければよいかと思っています。

(金田委員)

学校指導課、教職員課両方にまたがる問題だと思いますけど。私は小中の義務教育母集団はそんなに度数分布が変わらないと思います。問題は地域間の偏りが出てくるとい

うことは、先生方の指導力が問われてくるのではないかと思います。そういうものの情報を学校指導課は指導主事が先生方の授業をきちんと見る。その授業を行う力を、人事を行う教職員課に伝え、お互いに連携を取りながら情報を共有していく。そういう中で教職員課はきちんとした人事配置をやっていくということが問われてくるのではないかと思います。問われるのは現場・学校ではなく、そのような人事配置をしたり、先生方の指導力を把握するかどうかという教育委員会の事務局ではないかと思います。ぜひそういうところをきちんとやっていただければと思います。

(小浦教育次長兼学校指導課長)

おっしゃるとおりです。教職員課と学校指導課がタイアップしてさらにやっていきたいと思っています。

(田中教育長)

まさに、教員の資質向上が要だと私も思います。そういう面でも研修の充実などやっていますが、教師は現場で育つということもあるので、学校現場でしっかり人事も含めて、教職員が一体となって生徒の指導に当たれるような体制づくりも含めて、いろいろ知恵を絞り、工夫もしていきたいと思っています。

この後、金沢大学のご協力も頂き、また詳細に分析します。その結果を学校現場にもしっかりフィードバックし、あるいは、今ご指摘のあった人事も含めて、サポート体制も整えて、引き続き地道に努力をしてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

報告第4号 第26回全国産業教育フェア石川大会の概要について

(小浦教育次長兼学校指導課長説明)

報告第4号「第26回全国産業教育フェア石川大会の概要について」をご説明します。資料16ページをご覧ください。まず、日時は11月5日、6日の両日、県産業展示館を主会場に開催することとしております。既に1カ月を切っており、事務局としても今、いろいろな学校と連携しながら頑張っているところです。

大会の実施内容としては、例年行われている企画として、産業教育を学ぶ高校生らによる学習成果の展示、研究発表の他、ものづくり等の体験コーナー、ロボット競技大会やクッキングコンテストなど、生徒が日ごろ学んできた技術を競う催しを予定しております。

一方、石川大会独自の企画としては、まず、本県大学等の研究内容やものづくり産業の高い技術力を紹介するブースを設置します。現在、大学・短大や企業等のご協力のおかげで、合わせて80ものブースを設置することができる運びとなりました。

また、本県の他に、新潟や熊本、和歌山、宮崎など、農業を学んでいる8県の高校生による世界農業遺産シンポジウムを開催し、これからの農業について生徒主体の討論会を行います。

さらに、本県誘致企業にゆかりのあるノーベル物理学賞受賞者である名古屋大学の天野浩教授に、「世界を照らすLED」と題して記念講演を行っていただくこととしており、1000名を超える本県高校生が会場に足を運ぶ予定となっています。

この他にもつきましても資料にありますように、多数の催しを計画し、主役となる高校

生はもちろん、子どもから大人まで幅広い方々の興味・関心を喚起するような大会にしたいと考えております。大会準備につきましては、主催者である県、文部科学省、教育産業振興会、金沢市、産業教育団体等で構成する実行委員会を今までに2回開催しており、組織、大会要項及び予算等の承認や助言を受けた上で、現在詰め作業を進めているところです。

広報活動につきましては、ホームページやフェイスブックの開設の他、出場校の代表生徒で構成する生徒実行委員会を中心となり、MEX 機械工業見本市や百万石まつり、文部科学省などで精力的にPR活動を行ってきたところです。先日も、ツエーゲン金沢の方々とこの合同による広報活動を金沢駅で行っており、今後も今週末の「農林漁業祭り」でPR活動を行うなど、引き続き、機会を捉えて広報に努めてまいります。

委員の皆さまにおかれましても、お忙しいとは存じますが、ぜひご来場いただきますようお願い申し上げます。以上で説明を終わります。

【質疑】

(田中教育長)

右側に4号館、3号館の会場の催し物の配置が記載されています。メインのオープニングのイベント等は4号館で開催することとしています。その他、一部スポーツセンターもロボットコンテストで活用することとしております。クッキングコンテストについては、金沢学院大学にご協力を頂いて行うという形になっております。

また、ここでお礼を申し上げたいのは、産業界、高等教育関連の皆さんには非常にご協力を頂き、ブースもたくさん出展できることになりました。それから、実行委員会の予算に500万円の協賛金を目標として掲げておりましたが、おかげさまで目標額を大きく超える協賛を頂くことができました。産業界の皆さんにはご理解を頂き、非常に感謝しております。

(眞鍋委員)

県内の1000名を超える高校生が足を運ぶとお聞きしましたが、全国からどれぐらいの高校生がいらっしゃるのでしょうか。それから、広報に努めるというお話ですが、これは一般市民、県民の方がどなたでも自由にご来場いただけるのでしょうか。

(小浦教育次長兼学校指導課長)

後のご質問からお答えしますと、一般の県民の方も自由に来ていただく形で広報をしております。

高校生の件は、対外的に他県から来る学校関係者は3000名近くと聞いております。また、先ほどの1000人というのは天野さんの講演会に来る生徒です。あれは普通科の生徒です。あれ以外の多くの専門高校はほとんど全員来るような形で頑張っているところでもあります。

(田中教育長)

専門高校の生徒だけでなく、普通科の生徒たちにも興味を持って来てもらえるような工夫もしています。それから、輸送の関係では金沢駅からシャトルバスで産業展示館まで往復で乗っていただくという段取りもしています。あと1カ月を切って、最後の追い込みに入っているところです。一番大変なのは当日の輸送関係、案内関係でござい

ないようにということです。催し物はきっちりそれぞれ分担してやりますが、当日大混雑になったり、案内が悪かったり、あるいはシャトルバスできちんと運べるのかというようなどころの詰めの作業を今からやっていきたいと思っています。

報告第5号 第71回国民体育大会における本県選手団の成績について
(徳田スポーツ健康課長)

資料の17ページをご覧ください。報告第5号「第71回国民体育大会における本県選手団の成績について」ご説明します。

10月1日から昨日まで中心会期の競技が開催されておりました「第71回希望郷いわて国体」におきまして、「1 男女総合成績」、いわゆる天皇杯における都道府県別成績で、本県選手団は各競技において健闘いたしましたが、得点838点で順位は36位となり、目標としていた1000点獲得、5年連続20位台以内の確保はなりませんでした。

2は、第66回大会以降の男女総合成績と女子総合成績の推移です。

3の入賞数については、団体では昨年17のところ14、個人では昨年50のところ51となりました。

4の優勝につきましては、団体ではハンドボール成年女子・北國銀行が4年連続9回目、水球少年男子・金沢市立工業高校が25年ぶり2回目の優勝に輝きました。個人では、スキー成年女子のジャイアントスラロームで石川選手が冬季国体において県勢として初優勝を果たし、水泳競泳の成年男子100m自由形で小堀選手が2連覇を達成、水泳飛込の成年女子飛板飛込で中川選手が8回目の優勝、カヌー成年男子のスプリント200mで松下選手が2年ぶり6回目の優勝、カヌー成年女子のワイルドウォーター1500mで笹生選手が11連覇を達成しました。

今回は残念ながら、目標は達成できませんでしたが、今後、県体育協会や競技団体等と連携して詳細な分析を行い、来年の「愛媛国体」においては、これまで掲げてきた1000点獲得20位台以内の成績を目指してまいりたいと考えております。以上です。

【質疑】

(田中教育長)

今、ご説明にありましたように、個人は昨年並みの入賞を確保できましたが、今年は団体の方が苦戦しました。そんな中でも少年の男子バスケットが48年ぶりの準優勝など、健闘した種目ありました。例年頑張ってくれていた協議が、組み合わせの関係等々もあって少し苦戦したこともありまして、今回はこんな結果になりました。またしっかり分析をして、来年以降の強化に、体育協会と連携してしっかり取り組んでまいりたいと思っております。

(田中教育長)

以降の審議について非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

杉中教職員課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

報告第2号 平成28年度いしかわマスター教員の決定について
杉中教職員課長が説明した。

- ・ 閉会宣言

田中教育長が閉会を告げる。